この学校では、こんな学びが始まる

場所にとらわれない 新しい学びへの転換

多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

静岡県立静岡中央高等学校

単位制による定時制（３部制）・通信制／普通科

この改革が必要な背景

・ 静岡県の全日制・定時制の生徒数は、令和６年までの５年間で12.6%減少する中、**外国人7.0%増、不登校23.4%増、いじめ認知件数63.9%増**と多様なニーズが急増

⇒ 従来の学校の仕組みだけでは対応が難しい生徒が増加

事業概要（学びの変化）

探究の質を高め、地域資源を「地域まるごと学びの場」に転換

- ✓ **フィールドワーク**で見つけた**地域課題をもとに探究テーマを設定。**整備するファブラボ（試作品作成・検証・改善を行う探究活動の場）を拠点とし、学びに**試作・検証・改善のサイクルを導入**
- ✓ 課題設定・レビュー・実証には**自治体・企業・大学・NPO等が関与し、探究の質を高める**

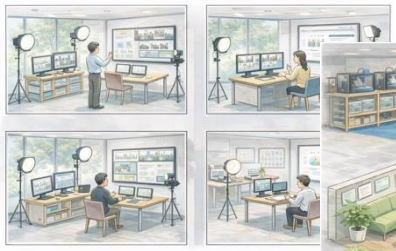
放課後等で、探究・進路・学び直しの支援や対話による交流の場の構築（公営塾）

- ✓ **地域人材を活用**したワークショップ等も開催し、探究テーマの深掘りや学び直し等の学習支援・進路相談を実施
- ✓ 特に、**地元産業に着目した「静岡産業講座」の実施**など、生徒の興味・関心を引き出し

多様な背景や学習ニーズを持つ生徒が、在籍形態や居住地に関係なく学べる仕組みの構築

- ✓ 転籍・転学の柔軟化や学習履歴・支援記録の一元管理を行うとともに、進路・特別支援等の**コーディネーターによる伴走支援体制の確立**
- ✓ 複数校を対象とする**合同ディスカッション・合同発表等を組み込んだ遠隔授業**で、高度な科目や、多様な選択科目の選択肢を提供
- ✓ 複数校が同一プログラムで協働する**「総合的な探究の時間」の共同実施**
- ✓ オンラインの活用で、進学対策補講、特別講座も実施

（遠隔教育配信ルームのイメージ）
※複数校同時配信対応の拠点



（ファブラボのイメージ）
※個別支援・交流等の拠点

＜例①　生徒の１日の流れ（定時制課程３年目のAさん）「**通学型・伴走支援活用**」＞

【8:30】登校・ゼミ（LHR）出席

【10:30】遠隔授業「数学C」
※高度な科目を選択履修

【13:00】「総合的な探究の時間」
※地域課題の解決に向け、ファブラボで試作品作成

【18:00】対話・振り返り（公営塾）
※探究テーマについて民間専門家と意見交換

＜例②　生徒の１日の流れ（通信制課程２年目のBさん）「**在宅型・遠隔学習活用**」＞

【9:00】遠隔によるレポートの個別指導
※英語「論理・表現Ⅱ」の添削結果の解説

【10:30】オンラインで「地理総合」のレポート作成・提出

【13:00】遠隔授業「物理」

【18:00】学び直し相談（公営塾）
※オンラインで個別支援の講座受講

高校生の未来の姿（指標の例）

生徒・保護者の「教育環境（選択肢の多さ）に対する満足度」

（現状）50% ⇒ （R10）85% ⇒ （R13）95%

他校への普及方策

・遠隔授業の受信校増　➡R10:6校 ⇒ R13:10校
（**開講が難しい科目も受講できる学校を拡大**）
・遠隔授業の配信コマ増➡R10:週4ｺﾏ ⇒ R13:週12ｺﾏ
（**生徒の選択肢を広げるための授業配信を拡充**）
・総合的な探究の時間の共同実施校 ➡R10:６校 ⇒ R13:25校

主な連携機関

県内外大学、中山間地域自治体、NPO法人 ほか

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成